

N P O ( 特定非営利活動法人 ) 2 1 世紀水倶楽部

平成 15 年度年報

自平成 15 年 5 月 9 日 ( 発足日 ) 至平成 16 年 3 月 31 日

( 9 月 8 日まで任意団体、9 月 9 日以降 NPO 法人 )

平成 16 年 6 月 23 日 2 1 世紀水倶楽部

## 目次

序文（理事長）	・・・1
各界からの提言	・・・2～4
「21世紀水倶楽部への期待」国土交通省都市・地域整備局下水道部長 谷戸善彦	
「21世紀水倶楽部に期待するもの」日本下水道事業団 理事長 安中徳二	
「21世紀水倶楽部に期待するもの」日本水道工業団体連合会 専務理事 坂本弘道	
1. 設立までの経緯	・・・5
2. 手続きの概要	・・・6
3. 03年度の事業報告	・・・9
3.1 ホームページの立ち上げ	・・・9
3.1.1 HPの構成	・・・9
3.1.2 7つのテーマ設置	・・・9～16
3.2 シンポジウムの開催	・・・17
資料編（平成16年6月23日通常総会資料）	・・・18～

## 序文

地球は太陽系の中の一つの惑星です。恒星である太陽は約 100 億年前に誕生し、一方地球は発生以来 46 億年と言われていいますので、折り返し点に近づいている事となります。

地球から発射された観測衛星の資料により判ってきた事があります。たとえば火星や金星は周囲を二酸化炭素で覆われ、火星の表面温度は - 90 度で、金星は 450 度であると言われています。それと比較して地球の表面は平均 15 度です。地球の水環境や大気環境のなかで生物が生存し、その代謝により現在地球環境が形成維持されています。そして 25 億年前には地球上に光合成を行うバクテリアが発生し、窒素や二酸化炭素が主体であった地球の大気環境を酸素のある環境へ変化させて来ました。また 6 億年以前の先カンブリア時代はバクテリアが生存していましたが、4 億年前から陸地に植物が進出し、次に動物が進出して現在に到っております。

地球上の生物が生存するエネルギーの源泉は太陽であります。その放射エネルギーのうち、紫外線の働きで地表の酸素が反応し成層圏のオゾン層を形成し、地表への紫外線の放射を防いでいます。大気を循環する水蒸気は地球表面の 50 % を雲として覆っており、太陽エネルギーのうち可視光線や赤外線を吸収し地球より放射される赤外線を吸収して、地球の温暖化に役立っています。この温暖化の作用により、宇宙から見た地球は平均 - 18 度の大気環境でありながら地球表面は 15 度の平均気温を保っています。

この様に見ると、地球環境は大気、水、生物の相互に影響しあう共生の環境で成り立っていると言えます。生命の起源は水であるとも言われています。人類は地上に現れて約 500 万年ですが、人体の 70 % は水で構成され、また人体の組成は地殻、海洋、大気と同様の原子により成り立っています。地球に生存する生物は水を介して、また大気や土壌を介して相互に影響し合いながら太陽エネルギーの恩恵に浴しています。

21 世紀水倶楽部はこの地球環境の保全の仕組みを科学し、広く情報の発信を継続していきたいと思っております。

( 大迫理事長 )

(各界からの提言)

## 2 1世紀水倶楽部への期待

国土交通省都市・地域整備局下水道部長 谷戸善彦

2 1世紀水倶楽部の関係の皆様方には、日頃より下水道をはじめとする水環境保全についての普及啓発等に積極的に取り組まれていることについて、改めて感謝申し上げます。

「三位一体の改革」の中、下水道事業を取り巻く環境も大きく変化してきておりますが、国民の生命・財産を保護し、豊かな環境を築くという下水道事業の重要性、緊急性については、いささかも変わるものではございません。厳しい状況下ではありますが、引き続き下水道事業の促進に向けて努力して参りたいと存じます。

貴会におかれましては、このような時期であるからこそ、下水道の役割や効果について国民に広く「情報発信」していただきたいと存じます。下水道普及率が6割を超えるまでに達したことをもって、下水道整備はかなり進んでおりもう十分ではないか、といった声の一部にあるようですが、これは大きな誤解であります。普及率が何割であろうが、下水道が使えない人々にとってはいつまでもゼロのままであり、安全で快適な社会を築いていくためには、高度処理や浸水対策などまだまだ下水道整備が必要です。正しい情報を十分に伝え切れていない行政側も大いに反省しなければならないところでありますが、貴会におかれましても行政とは異なる立場で、大いに下水道の情報発信を行っていただきたいと思っております。

また、同時に、広く国民の声を吸い上げる「広聴」の役割を果たされることを期待しています。これからの下水道整備は単につくればよいというものではなく、国民に納得いただけるサービスを提供するためには、ユーザーである国民の意見を聞き、どのような事業を、どの程度まで、誰が負担して、といったことについて合意形成を図っていくことが重要です。国民のいろいろなご意見を掘り起こしていくことが、今後の下水道の展開には不可欠といえましょう。

さらには、貴会の活動を通じて得られる様々な情報・知見をとりまとめ、下水道・水環境についての将来のビジョンについては是非ご提言をいただきたいと思っております。われわれ行政の立場とは違った立場、視点から、既成概念にとらわれない斬新なアイデアが生まれてくることを大いに期待しております。

最後になりましたが、貴会会員の皆様、環境の保全という高い志のもと、益々のご発展をとげられますことを祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

## 2 1 世紀水倶楽部に期待するもの

日本下水道事業団理事長 安中徳二

2 1 世紀水倶楽部の設立 1 周年おめでとうございます。

下水道整備が一定のレベルに達し、一般の関心がややもすれば薄れ勝ちの中、下水道が抱える課題と、その解決の必要性をそれぞれの御経験をもとに訴えてこられた会員の皆様の御努力に対して心から敬意を表する次第です。

公共事業冬の時代といわれる現在、下水道のように国民にうるおいのある、安心で安全な生活をもたらすために不可欠の事業であってもこれを計画的、かつ着実に実施していくためには、ユーザーでありタックスペイヤーでもある国民の理解と支持、そしてその意向の実現に重大な関わりをもつ財政担当などの意思決定者の理解を得ることがこれまでに増して必要です。そのためには、下水道の更なる展開によってもたらされる新たな価値を示し、議論し、理解を深めていく必要があります。

御承知の通り、下水道の課題は未整備地区の整備の促進に加え、快適で安全な生活環境の確保、健全な水循環の構築と維持、資源のリサイクル社会への貢献、情報化社会への基盤づくりなど多々ありますから、これまで通り 2 1 世紀水倶楽部には、基本のところから一般の理解が進むよう、オピニオンリーダーとしての活動を継続していくことが期待されます。

これからの活動の重要なポイントは、このところ意思決定の方法が変ってきたことを認識し、それに的確に対応していくことだと思われます。目に見える変化は国際会議の場に如実に現れていますから、第 9 回世界湖沼会議(大津市)や第 3 回世界水フォーラム(京都市他)などに出席された向きは感じられたと思うのですが、その会議の共同宣言などの重要な決定が、あらかじめセットされた事務局原案の承認という形では進まなくなっているということです。われわれの分野では、事柄の性格から、より住民の意向を代表すると考えられる NGO の発言力が高まってきていてその合意を得ないと全体の意思決定ができないという流れができつつあるということだと思われます。最近の行政の手法の中で、PI(パブリック・インボルブメント)が定着化しつつあるように思えるのは、行政がいち早くそのことに気付いているからと考えられます。ごく最近開催された「日本水フォーラム」の発起人総会では、従来の「産・官・学」ではなく、「産・NGO・官・学」の協調というフレーズが飛び交っていました。このようなことを考えると、2 1 世紀水倶楽部に期待されるのは、NGO であることをもっと意識した、時に意思決定に関わるような主体的なパフォーマンスをすることであると思われます。そして、その時々に応じたプレゼンテーションが伴うことよって、これまで以上に主張は浸透しやすくなると考えられます。

2 1 世紀水倶楽部への期待として、下水道の立場から至極基本的なことを申し上げます。会員各位の幅広い分野での御活躍と益々の御健勝をお祈りする次第です。

## 2 1 世紀水倶楽部に期待するもの

日本水道工業団体連合会 専務理事 坂本弘道

クラブに入会致しました坂本と申します。どうぞよろしくお願い致します。

水団連は、上下水道、工業用水道に関係する企業によって運営されています。従って、厚生労働省、国土交通省、経済産業省の認可を受けている社団法人です。役所の所管が3カ所に分かれていますので、水団連は、その橋渡しの存在です。

3 水道を担当している団体は、他にはありません。そういう意味で、水団連は、特異な存在かもしれません。その特異性を生かして、これからも、その間の調整などに全力を尽くして参ります。

さて、当クラブの名称は、2 1 世紀水クラブです。その発足は、主として下水道の関係者によってなされました。また、会員の殆どが下水道関係者によって占められています。しかしながら、定款を拝見致しますと、下水道のみならず、広く水全般を対象にした活動ができるようになっています。

小生は、厚生省採用で、主として水道、廃棄物の分野に携わってきました。また、経済企画庁、環境庁、水資源開発公団等で、多くの水関連省庁の方々と一緒に仕事をして参りました。従って、他省庁の方々と一緒に仕事することに全く違和感はありません。その中で、上下水道の分野は、一致協力して進めなければならないことを痛感してきました。

今や、上下水道の関係者が、バラバラに仕事をする時代ではないのです。地方公共団体では、上下水道行政を一体的に取り扱うところが多くなりました。政府の補助金も、下水道、農村集落排水、合併浄化槽を一体的に取り扱う動きもあります。まさに、時代は変わりつつあります。

そういう意味で、当クラブは、上下水道を一体的にとらえた有意義な団体だということができます。今のところ、上水道関係者の入会は少ないですが、小生も入会を契機に、広く入会を募ることを希望しています。

2 1 世紀は、水の時代だといわれています。当クラブが、下水道関係者のみならず、広く水に関係する人々の意見交換の場として発展することを、心から期待しています。

## 1. 設立までの経緯

この「21世紀水倶楽部」は、旧建設省下水道部OB連での雑談の中から生まれた。各人も第2の職場でそれぞれ活躍中であるが、時間的に余裕のある立場となったこともあり、これからの人生の一部を、世のため人のために尽くすことを考えようじゃないかということになり、その受け皿としてNPOを創ることになったものである。

各メンバーは、50歳台前半から60歳台半ばである。まだまだ再利用が利く年齢であり、蓄積された知識と経験を有効に活用しない手はないし、世の中と各人の健康のためにも、それなりの社会貢献をすることは、有益である。

また、NPOは、ボランティア活動の拠点であると同時に、情報発信の基地である。

下水道事業に対する世の中の誤解や偏見に無念の想いを抱いたことや、公務員としての立場上、私的な意見を発することを控えていたことも多い筈である。今後は自由な立場で積極的に自らの信ずるところを吐露し、世の中へ賛否を問うことができるし、これは、従来の官側の情報公開不足を解消するための一助となるであろう。世の中に下水道事業のありのままの姿を映し出すことにより理解と支援が得られることになり、事業推進の円滑化を促すことになる。

「21世紀水倶楽部」の目的とするところは、次のとおりである。

下水道の正しい姿を世の中へ伝えること

経験者の意見開示の場を提供すること

世の中の声を汲み上げること

下水道に限らず広く環境問題に関心を持ち真理を追究すること

平成14年12月、第1回の発起人会が開かれ、平成15年4月の第5回発起人会までに、おおよその骨格が出来上がり、同5月9日に設立総会を開催する運びとなった。その後、東京都へNPO法人認証を申請し、同8月27日認証を受けて現在に至っている。

発起人会の構成は、建設省OB、日本下水道事業団OB、東京都下水道局OBから成っている。発起人は下水道関係者ばかりであるが、環境問題のどのような分野であろうと関心がある方は、会員として歓迎することは言うに及ばない。大歓迎である。少しでもボランティアとして活動してみたいと思っている方は、ぜひ参加していただきたいものである。

「21世紀水倶楽部」としての主要テーマは、とりあえず決めているが、それらに参加するもよし、それ以外のテーマでもご提案いただければ、課題は自由である。

ボランティア活動は、無理のない範囲で永く続けていくことが大切である。多くの方々の参加の下に、小さな善意の集まりが大きな社会貢献となることを期待するものである。

## 2. 手続の概要

### \* 第1回設立準備会（平成14年12月18日）

出席者：亀田泰武、望月倫也、中川幸男

- 議題：
1. 名称
  2. 事務所所在地
  3. 理事、監事定数
  4. 社員
  5. 事務局

### \* 第2回設立準備会（平成15年1月28日）

出席者：安藤茂、奥井英夫、亀田泰武、望月倫也、浦田健一、村上忠弘、中川幸男

- 議題：
1. NPOの目的
  2. 事業内容
  3. 名称
  4. 理事、監事、事務局長の人選

### \* 第3回設立準備会（平成15年2月25日）

出席者：安藤茂、奥井英夫、亀田泰武、望月倫也、浦田健一、村上忠弘、深堀政喜、  
中川幸男

- 議題：
1. 理事長の選任
  2. 名称（継続審議）
  3. 事業内容
  4. 定款原案
  5. ホームページの活用

### \* 第4回設立準備会（平成15年3月26日）

出席者：奥井英夫、亀田泰武、望月倫也、村上忠弘、深堀政喜、中川幸男

- 議題：
1. 理事長の選任
  2. 名称（継続審議）
  3. 定款案の審議

### \* 第5回設立準備会（平成15年4月15日）

出席者：奥井英夫、亀田泰武、望月倫也、浦田健一、渡辺和紀、中川幸男

- 議題：
1. 理事長（大迫健一氏に決定）
  2. 名称決定（21世紀水倶楽部）
  3. 設立総会の開催（5月中旬）
  4. NPO法人認証申請の準備
  5. パンフレットの印刷
  6. ホームページの設置場所、ドメインの取得について



\* 「21世紀水倶楽部」設立総会（平成15年5月9日）

出席者：大迫健一、安藤茂、奥井英夫、市村訓男、亀田泰武、浦田健一、望月倫也、  
中川幸男、松井瑞江、村上忠弘、渡辺和紀

議題： 1. 議長選任  
2. 議事録署名人の選任  
3. 21世紀水倶楽部の設立趣旨  
4. 定款  
5. 役員  
6. 会費  
7. 確認書の確認  
8. 事業計画及び収支予算  
9. 法人設立認証申請

\* 特定非営利活動法人設立認証申請書を東京都へ提出（平成15年5月20日）

\* 「21世紀水倶楽部」臨時総会（平成15年7月23日）

出席者：大迫健一、安藤茂、奥井英夫、亀田泰武、望月倫也、松井瑞江、村上忠弘、  
渡辺和紀、中川幸男、浦田健一、深堀政喜、浦田健一、阿部恭二、山下博、  
小田泰平、藤本莞二、村井基浩

議題： 1. NPO法人認証申請の進捗状況について（報告）  
2. 会員の入会状況  
3. 現在までの活動報告  
4. 今後の活動予定  
5. ホームページの構築

\* 東京都より認証書受理（平成15年8月27日）

\* 特定非営利活動法人設立登記申請書を東京法務局へ提出（平成15年9月11日）

\* 「NPO法人21世紀水倶楽部」理事会（平成15年9月12日）

出席者：大迫健一、亀田泰武、望月倫也、村上忠弘、渡辺和紀、中川幸男、（奥井英夫）

議題： 1. 法人申請状況報告  
2. 定款の変更  
3. 総会の日程及び議題  
4. シンポジウムの開催

\* 設立登記完了届出書を東京都へ提出（平成15年9月24日）

\* 法人設立届出書を豊島税務署へ提出（平成15年9月30日）

\* 「NPO法人21世紀水倶楽部」臨時総会（平成15年10月8日）

出席者：大迫健一、安藤茂、奥井英夫、亀田泰武、望月倫也、松井瑞江、村上忠弘、

渡辺和紀、市村訓男、中村栄一、阿部恭二、山下博、小田泰平、藤本莞二、  
澤村三津久、中川幸男（他委任状提出者 8 名）

- 議題：
- 1．法人設置手続完了報告、会員入会状況
  - 2．定款の変更
  - 3．事業計画の変更
  - 4．会員の募集活動
  - 5．主要 7 テーマの今後の進め方について

### 3.0 3年度の事業報告

#### 3.1 ホームページの立ち上げ

NPO活動にインターネット・ホームページは不可欠である。会員間の連絡と、活動結果を広く全国に発信するためである。

本会の場合、特定地域にとどまらず、広く全国から会員を募集するので、遠隔会員間では、電子メールを駆使した、あるいはホームページ上での活動が必須である。

以下、一応の完成を見ているホームページ（以下、HPと略）の構成（3.1.1）と本会主要活動の7つのテーマ（3.1.2）について説明する。

##### 3.1.1 HPの構成

HPの表紙<<http://members.aol.com/SewerNPO/mizu-club.htm>>は季節の壁紙写真で彩られているが、それは入り口だけで、実質はリンク先の第二表紙にあるので、それに沿って説明する。

『会の事業予定』（『』内はHP上の表示、以下同じ）は会の具体の活動について、スケジュール・内容を会員のみならず広く不特定関係者に広報する必要があるので、トップ表示とした。『会員個人HPリンク』は会員個人運営のHPのリンクを張り、発信の便を図った。今のところ三HP分だけである。『正論広場』は一種の掲示板で、会員間の情報あるいは意見交換の場を意図している。『論文図書館』は個人HPを持たない会員のための、発信すべき論文などのためのスペースである。現在はサンプルを納めているが、実質掲載は未の状況である。『家庭排水とその処理いろいろ』『下水道なんでも』は「基礎知識の解説・普及」の活動チームの成果である。（以下略すが、いずれも会の情報を掲示している）

##### 3.1.2 7つのテーマ設置

『活動の主要テーマと説明』に当初考え出された7つのテーマの説明（主担当者、活動内容と主旨など）を記載している。会員でこのいずれかに加わりたいものは、主担当者に連絡し、集まった会員同士で具体の活動方法について協議することになる。また、別にテーマを新設することも可能である。

以下、7つのテーマ毎に今年度の活動状況を説明する。

###### ・「基礎知識の解説・普及」

当団体の普及活動として、HP、説明ボランティア、出前講座などいろいろなものが考えられます。とりあえずの活動として、HP上の普及活動について、実施可能で、できるだけ利用可能な内容にすることを考え、2本の軸で進めています。HP内容について、ないものや概要版は新たに作りますが、できるだけ既存のHPにリンクすることを考えています。

家庭排水とその処理いろいろ・・・家庭排水がどんなもので、水環境とどう関わり合いを持つのかなどの興味を持った一般の方々を対象に、できるだけ客観的な知見を提供する。分かりやすいというのも重要。

下水道なんでも・・・図書館のように、下水道に関連して知りたいことがあればこのHPを手がかりにしてもらえようような広範囲にわたる内容としています。読者階層は下水道関係者だけでなく一般の方々まで考えています。

## ホームページ内容

### 1, 生活排水による汚れ

水質改善が進まないのは富栄養化問題があるから

水系伝染病（今はめだたないが家庭排水の後ろにある大きな影）

家庭排水と環境ホルモン

合成洗剤と排水

下水道と浄化槽

### 2, 歴史

下水の歴史（下水道協会）

江戸の衛生管理は世界一だった

### 3, 排水の処理

排水を処理する微生物（東京都）

水道の浄水に比べてどうして排水処理にお金がかかるの

### 4, 汚染による健康障害

健康障害事例集（大阪府公衆衛生研）

### 5, 新しい水商品関連

アルカリイオン・電解水など（機能水研究振興財団）

水の話（小林 映章）

水商売ウォッチング（富永研究室）

### 6, 洗濯

奥様は洗濯上手（カネヨシドライク・・・）

### 7, 洗剤のいない洗濯機

洗剤ゼロコースの洗濯機（サンヨー）

「サンヨーの電解水洗い」の検証（カネヨシドライク・・・）

### 8, トイレ

週刊トイレ（メールマガジン）

## 2, 下水道なんでも

初心者から専門家まで幅広い階層を対象とした、下水道の情報館を目指して作成。他

ホームページにできるだけリンクし、ないものについて作成することとしている。

#### 1 , 各種機関、団体

国、公共団体 国土交通省の当該HPにリンク

地方整備局、都道府県、市町村、下水道事業団、公益法人など

専門紙 下水道に関連した新聞、雑誌の発行者

各種システムなど 圧送、雨水浸透など

下水道の資材

下水道建設

管の建設工法

管の更正（補修）工法

#### 2 , 解説

下水道の仕組み（下水道協会へリンク）

下水処理の図解（地球環境・水環境・・・へリンク）

排水を処理する微生物（東京都へリンク）

下水処理・汚泥処理最新技術（下水道施設業協会へリンク）

全国の下水道科学館（下水道協会へリンク）

普及状況など（下水道協会へリンク）

データ（国土交通省へリンク）

#### 3 , 新情報

静岡の豪雨 03/7/03~04

太宰府の豪雨 03/7/18~19

水俣の豪雨 03/7/20

#### 4 , 画像集

##### 4 - 1 マンホール

各地の下水道マンホール（マンホール友の会へリンク）

世界のマンホール（Mokkinへリンク）

##### 4 - 2 水辺景観

甦る水 100 選（国土交通省へリンク）

街の水辺（地球環境水環境・・・へリンク）

関西の水辺（AGUAへリンク）

隅田川橋物語（菱化システムへリンク）

水門（Sato Junichiへリンク）

#### 5 , 各種

下水道サロン「全般」へリンク

水工計画「全般、用語集、会議室」へリンク

## 「合併浄化槽と下水道」

### 1. テーマ選択の理由・背景

公共事業費の削減に伴い下水道事業費も削減されている。環境保全対策事業としての下水道事業も例外ではない。しかしながら、全国的に視て、下水道事業は完了したわけではない。特に、小規模町村では約900の自治体が下水道事業に未着手であり、下水道整備のペースを落とすことは、環境対策上極めて危険である。

また、大都市在住の有識者の一部からは、「下水道事業はほぼ概成した。残された小規模町村の下水道整備は合併浄化槽で整備するのが経済的である。」という実態と懸離れた意見が出されている。公共下水道は経済性が悪く、整備に時間がかかるが、合併浄化槽は、経済性がよく短期間で整備が可能であるという単純かつ誤解に満ちた論法によるものである。この結論は、両者の比較に際して斟酌すべきいろいろな要素を無視した一方的な比較方法によるものであり、フェアではない。

公共下水道と合併浄化槽は、どちらかが独占するものではなく効率よく組み合わせ、役割分担すべきものである。ともすると一方的な結論になるケースがあるが、このような誤解を生じないように議論を通じて、正しい知識や情報を伝えることや事業着手に当っては、自治体を支援することを目指している。

### 2. 担当者の提言

大都市と小規模町村の下水道整備は同じではない。しかしながら、小規模町村だから下水道は必要なく浄化槽でよいとはならない。どの様な組み合わせが最適なのか探るために、双方の長短を正しく理解するための手助けをすることを目標にしている。

下水道推進論と合併浄化槽推進論を併記した。両者の主張の中からそれぞれの長短が見えて来るはずである。

お互いに自論では短所に触れないため、理解し辛い点も多いが、ここでは、中立的な立場からいろいろな問題点についてフェアに比較検討していくこととしたい。

### 3. 提言への反応等

ホームページに両論を併記し、問題点を列挙し、議論の場を設けたが、残念ながら反応はなかった。

### 4. 今後への期待

議論の活発化を促すため、具体的なケースに基づいた検討データを開示し議論を誘発することとしたい。

## 「ディスポージャーと都市生活」

### 1. テーマの選定の理由と背景

ディスポージャーの導入は古くから議論されている事柄であります。早くも昭和30年頃には都立大学の左合教授等によりディスポージャーの普及の可否が論ぜられていました。この時は下水道普及率も一桁で、東京のような先進大都市でも下水道の普及は中心部のみで、

さすがに時期尚早ということで沙汰やみになっています。昭和60年前後には家電メーカーによる機器の開発と販売活動が活発になり、建設省でも真剣にその利害得失を調査しました。下水道普及は大都市では概成していましたが、全国的には30～40%でありました。ディスポージャーの生活上の利便性は認識されていたものの、機器の導入に伴う施設の増改築へ投資を一部分でも削ぐ余力はないと判断し、ゴーサインは見送られてきました。現時点では普及率は70%近くに達し、人口10万人規模以上の都市ではほぼ下水道は概成している状況下に有ります。また合流式下水道の改善対策が下水道事業の最重点政策にも取り上げられ、ディスポージャー使用による公共用水域への汚濁負荷の増加に有効な対策がとられつつあり、ディスポージャーの導入の可否を再検討する最適の時期であると思いません。

## 2. 担当者の提言

「21世紀水倶楽部」のホームページの「ディスポージャーと都市生活」のセクションを設けて、会員、一般の読者の投稿による議論に期待しておりましたが、全く投稿が有りませんでした。議論のネタとして下水道各界の有識者の見解をのせたことが、丁々発止の議論を予見させてしまい、読者の皆さんがたじろいでしまわれたのではないかと危惧しております。

## 3. 今後への期待

ホームページでの情報提供は今後も続けますが、本年度はこのセクションの会員間でのディスポージャーに関する意見交換を企画したいと考えております。本倶楽部としての今後の活動方針はその意見交換の場を経て作成してゆきます。

(執筆者 奥井)

### ・「都市の雨水排水のありかた」

下記の問題提起をしているが、テーマへの参加者がいない状況。今後できるだけ参加を呼びかけ充実させていきたい。

我が国の都市は河口の堆積地に成立したものが多いため、もともと排水がよくなく、昭和40年代まで、ちょっと雨が降ると水に浸かる地域がどの都市でもありました。これまで多額の建設費が投じられて大きなポンプ場や雨水管が整備され、今では少々の雨で水に浸かる地域は少なくなりました。

しかしこのことにより、新たな問題が出てきています。それは市街地の高度利用によるものです。市街地が高度利用され、ちょっとした水でも行き場がなくなってしまうます。このため局所的な集中豪雨で大きな問題を引き起こします。その例が地下室への進入です。

日本では水につかる危険性のある家屋の地下室は湿気もあることもあり、以前は作ってきませんでした。最近、浸水がなくなってきたため、ビルだけでなく個人住宅も地下室を

設けるようになり、逃げ場がなくなった雨水が入ってしまうことが多くなっています。

一方高度にネットワーク化されつつある都市は一つの機能がおかしくなるだけで全体に大きな影響を与えるようになっていきます。ジャストインタイムで活動している企業は、一つの物品の納入が遅れただけで、全体の生産が止まります。

こういう都市を、どう自然災害に強くしていくべきでしょうか。

雨水排水施設としては、都会にやすらぎをもたらす水辺を提供するという役割もあります。水路や湿地、池は、都市化の中で隅っこに追いやられてきました。水もきれいになりつつある現在、都会の水辺をどう整備していくかも今後の大きな課題です。雨水の貯留浸透とも密接な関係があります。

都市の雨水排水のありかたを検討し提案することは重要な課題です。

#### ・「合流式の改善」

##### (1) テーマ選択の理由・背景

東京お台場のホワイトボール事件に端を発して、合流式下水道の雨水吐きから雨天時に吐きだされる未処理下水による水域汚染が俄にクローズアップされた。我が国では合流式を採用している都市は 200 都市近くあり、特に大都市中都市の多くがこの方式を採用、問題は全国ベースに広がっている。

国土交通省の指導で各都市はこの方式の改善に取り組み始めているが財政難、技術難等で一朝一夕に解決出来ないのが実情である。どのように取り組むのが最も効果的なのか、皆の知恵を出し合ってみようと言うのがこのコーナー設置の理由である。

##### (2) 担当者の提言

03 年、プロ野球セ・リーグでは阪神タイガースが 18 年ぶりにリーグ優勝に輝いた。地元大阪ではこれを祝って多くのファンが道頓堀に飛び込んだ。道頓堀は淀川の派流とはいえ、30 近い市下水の雨水吐きから降雨時に未処理下水が流れ込むことがおり、水質は汚染され、衛生学的見地からも危険水域と言わざるを得ない。そんな川に今飛び込むことの愚を指摘し、水質改善おためにも合流改善を早急に実施すべきことを主張した。又大阪だけでなく全国各地の合流式下水道改善のために英知を結集すべきことを強調した。

##### (3)、(4) 提言への反応等

04 年 3 月末現在、残念ながらこのコーナーへの議論参加は皆無である。もう少し活発な議論が行えるように対応を考えたい。

##### (5) 今後への期待

合流改善は新しいようだが古くから指摘されている問題である。昭和 40 年代以降は分流式を採用するのが一般的隣っている。これは合流式が持つ問題点を意識し始めたからに外ならない。

改善対策の実施には技術的、財源的に、又社会的にも多くの難問を抱えており、専門家派もとより市民からの斬新な知恵の提供が望まれる。この為、今後は討議の範疇を 1)効率



的対策技術、2)財源調達、3)市民の理解 の3点に絞って議論を展開してみたい。ハードな技術だけでなくソフト面での対応も模索したい。議論が熟した段階で、シンポジウムを開催したい。

以上(文責：安藤)

#### ・「ITの活用」

##### (1) テーマ選択の理由・背景

近年の急激な下水道予算の減少で、下水道の設計、施工、維持管理業界が冷えきっています。そんな時、政府が推進しているe-Japan戦略や市町村合併を原動力として、新しい需要を創設するため下水道事業とITのドッキングが必要だと感じました。

##### (2) 担当者の提言又は意図

ブロードバンドの急速な普及やICTタグの実用化などITの世界は飛躍的に進化していますが、下水道施設には先端的なシステムや装置の採用が遅れているようです。センサーや通信設備等の追加投資以上の支出削減効果が得られ、安全性等の機能が高まる場合も多いと思うのですが、あまり進展していません。

下水道管きょを光通信ケーブル収容空間として活用する事業も停滞していて、下水道によるFTTHも思うように普及していません。

複数の処理場等を集約して一括監視制御するものから、マンホール蓋のIC管理までITの活用範囲は極めて広く、小さなアイデアから大きな効果をもたらす可能性があります。NPOを通じて多くの意見や発想を受信して、現実のものに育てる作業の一翼を担いたい気持ちです。

##### (3) コーナーへの応答(反応)

コーナーへの反応はありませんでした。IT議論の話題提供のため開設した個人ホームページも内容が貧弱なためアクセスは500件、低調でした。掲示板正論広場での呼びかけにも現在のところ反応はありません。発信情報の補強を考えます。

##### (4) 今後への期待

現在は余剰気味の通信媒体も人間の五感を送信再現するなど次世代の超高速通信時代にはもっと緻密で大容量のネットワークが必要になるとする予測もあります。下水道空間が再度貴重なIT資産となることを期待し、そのためにもITを活用したIT活動会員の勧誘とIT活動の進展を目指します。

以上(文責；深堀)

#### ・「水災害への備え」

##### (1) テーマ選択の理由・背景

災害宿命国の日本では、「天災は忘れられた頃やってくる(寺田寅彦)」といわれ、諦めの境地で災害への備えを怠ってきた。

それでも、先人土木の技術者は為政者の心構えで、治水対策、湯水への備えに尽力してきて、その結果、まれにしか大災害が起きなくなると、一般国民はさらに「備える」心構えを失ってしまったようだ。

災害対策はある意味で「保険」のようだ。失うものが大きければ、多くの備えをしなければ安心とはならない。生活大国を目指すのに、「そのとき暮らし」では適わないことを寅彦師同様に警鐘を鳴らしたく、このコーナーを設置した。

## (2) 担当者の提言

長野県田中知事はコンクリートのダムはすべていけないとする「脱ダム宣言」を提唱した。この主張の科学的根拠は皆無だが、世の中の災害へ備えない安易な風潮におされ、意外と支持を受けてきた。

この理不尽な状況に黙ることなく、この NPO での議論を重ね、ささやかな反旗だが、インターネットで全国民に訴えていきたい。

## (3)、(4) 提言への反応等

04 年 3 月末現在、残念ながらこのコーナーへの議論参加は皆無である。もう少し活発な議論が行えるように対応を考えたい。

## (5) 今後への期待

正論広場でも、水資源問題への議論をお誘いした。水資源の問題は、水不足の問題ではなく、水を賢く使っていないとするものだ。

皆様のこれら議論への参加を待ちたい。

以上(文責：望月)

### 3.2 シンポジウムの開催

当NPO法人初のシンポジウムを（社）日本下水道施設業協会との共催で11月に実施いたし、多数の方に参加していただきました。

#### シンポジウム概要

##### 下水道の海外技術協力 - 現場から

###### 1, 目的

発展途上国では都市の急激な人口増により都市衛生の悪化、水質の汚濁など問題がますます大きくなっていますが、下水道施設の建設、維持管理について経済事情が悪くなっているなど対策が難しい状況にあり、今回、現場で従事されている専門家の方々から、現状説明、問題提起をしていただき、方向性を探るのが目的でありました。

###### 2, 講師

以下の方々にお願ひし、多忙な時間を割いて講演いただきました。

国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水処理研究室長 中島英一郎氏  
熱帯地方に適した低コスト下水処理の方向

日本工営 鎌田 寛子氏

タイにおける技術協力の課題

JICAシニアボランティア 上田 恵一氏

ヨルダンにおける技術協力の状況と課題

座長 21世紀水倶楽部 副理事長 安藤 茂

各講師による簡単な状況説明のあと、座長が問いかけるかたちで貴重な意見をいただきました。

3, 参加費用 無料

###### 4, 会場

虎ノ門パストラル 本館8F 白樺の間

###### 5, 開催日時

平成15年11月6日(木) 午後2:00~5:30

###### 6, 参加者

参加呼びかけ対象は国土交通省下水道部、国土技術政策総合研究所、下水道事業団、関連公益法人、上下水道設計会社、下水道施設協会会員会社、専門紙新聞社などで約80人の参加がありました。

7, 主催 (社)日本下水道施設業協会、NPO法人21世紀水倶楽部 共催

資料編（平成 16 年 6 月 23 日通常総会資料）

1. 法人登記

特定非営利活動法人として、登記完了（平成 15 年 9 月 11 日）

2. 会員数

正会員 49 名（目標 60 名）

賛助会員 5 名（目標 8 名）

3. 総会及び理事会

総会（平成 15 年 10 月 8 日）

理事会（平成 15 年 9 月 12 日、平成 15 年 11 月 28 日、平成 16 年 3 月 25 日）

4. 事業実績

（1）ホームページの開設

主要な 7 テーマについて基礎知識と対立意見を紹介し、広く意見交換の場を提供した。

（2）シンポジウムの開催

テーマ「下水道の海外技術協力……現場から」（平成 15 年 11 月 6 日）

（3）講師派遣（1 名）

上下水道コンサルタント協会東北支部技術講習会（平成 15 年 11 月 21 日）

テーマ「NPO 法人の役割」

## 平成15年度 特定非営利活動にかかる事業会計収支計算書

平成15年5月1日から 平成16年3月31日まで

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	
収入の部			
1 会費・入会金収入			
会費収入	720,000	474,000	
2 事業収入			
3 補助金等収入			
4 寄附金収入	0	57,183	
5 その他収入			
6 その他の事業会計からの繰入			
当期収入合計	720,000	531,183	
収 入 合 計	720,000	531,183	
支出の部			
1 事業費			
(1) 研究開発事業費			
通信運搬費	40,000		
印刷製本費	60,000		
(2) 普及啓発事業費			
通信運搬費	50,000		
印刷製本費	490,000		
事業費計	640,000	0	
2 管理費			
什器備品費	5,000		
光熱水費	5,000		
消耗品費	5,000	47,085	
通信運搬費	5,000	50,073	
印刷製本費	10,000	138,162	
租税公課	50,000	3,000	
支払手数料		1,260	
管理費計	80,000	239,580	
3 予備費			
予備費	0	0	
当期支出合計	720,000	239,580	
当期収支差額	0	291,603	
次期繰越収支差額	0	291,603	

## 任意団体「21世紀水倶楽部」収支計算書

平成15年5月1日から平成15年9月8日まで

収入の部				支出の部		
年会費	正会員	11名	66,000	管理費	通信費	16,815
					消耗品費	16,065
					印刷費	33,600
寄付金			30,893			
預り金			124,000	懇親会支出		93,107
				懇親会会費残戻し		30,893
				当期収支差額		30,413
計			220,893			220,893

190,480

次期収支差額 30,413

## 特定非営利活動法人「21世紀水倶楽部」 収支計算書

平成15年9月9日から平成16年3月31日まで

収入の部				支出の部		
年会費	正会員	38名	408,000	管理費	通信費	30,948
	賛助会員	5名			消耗品費	31,020
					印刷費	104,562
					運賃	2,310
寄付金			26,290		租税公課	3,000
					支払手数料	1,260
				当期収支差額		261,190
計			434,290			434,290

前期収支差額 30,413

次期収支差額 291,603



## 監査報告

特定非営利活動法人「21世紀水倶楽部」  
定款の定めにより、平成15年度に係わる  
財務及び会計の監査を行った結果、適正と  
認められたことを報告いたします。

平成16年6月2日

特定非営利活動法人「21世紀水倶楽部」

監事 奥井英夫 

# 平成16年度 事業計画書

平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

## 1 事業実施の方針

平成16年度は、前年度からの研究開発事業及び普及啓発事業を継続すると共に、内容充実を図る。研究開発事業では、下水道整備の進め方について、広く意見を聴取し、交換し、その結果をまとめ提言する。

普及啓発事業では、ホームページの一層の充実を図ると共に、自治体向けの「相談窓口」を開設する。シンポジウム「便利な家庭用品は、本当に環境に優しいか？」を開催する。

収益事業を受託し、その収益を活動費に充てる。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支出見 込み額 (千円)
研究開発 事業	下水道整備のあり方についての意見を広く聴取し交換し集約する。	4月から 3月まで	法人事務所	7名	全国 不特定多数	250
研究開発 事業	河川と下水道の総合的雨水対策のあり方について提言する。	4月から 3月まで	法人事務所	7名	全国 不特定多数	200
普及啓発 事業	ホームページの一層の充実を図る。	4月から 3月まで	法人事務所	6名	全国 不特定多数	150
普及啓発 事業	自治体向けに「相談窓口」を開設する。	4月から 3月まで	法人事務所	6名	全国 不特定多数	250
普及啓発 事業	家庭下水の質的变化について考えるシンポジウムを開催する。	7月頃	都内	5名	全国 不特定多数	200

### (2) その他の事業

事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	支出見 込み額 (千円)
調査業務受託	中小市町村の下水道の早急な普及促進に関する調査	6月から 3月まで	全国	5名	2500

## 平成16年度 特定非営利活動にかかる事業会計収支予算書

平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

(単位:円)

科 目	金 額	
収入の部		
1 会費・入会金収入 会費収入(正会員80名、賛助会員10名)	980,000	980,000
2 事業収入 シンポジウム会費	80,000	80,000
3 補助金等収入		
4 寄附金収入	150,000	150,000
5 その他収入		
6 その他の事業会計からの繰入		500,000
当期収入合計		1,710,000
収 入 合 計		1,710,000
支出の部		
1 事業費		
(1) 研究開発事業費		
通信運搬費	100,000	
印刷製本費	150,000	
旅費	200,000	
(2) 普及啓発事業費		
通信運搬費	100,000	
印刷製本費	200,000	
使用料	100,000	
旅費	200,000	
		1,050,000
2 管理費		
什器備品費	50,000	
光熱水費	5,000	
消耗品費	50,000	
通信運搬費	50,000	
印刷製本費	300,000	
租税公課	100,000	
ホームページ使用料	100,000	
		555,000
3 予備費 予備費		100,000
当期支出合計		1,705,000
当期収支差額		5,000
前期繰越収支差額		291,603
次期繰越収支差額		296,603

## 平成16年度 その他事業にかかる事業会計収支予算書

平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

(単位:円)

科 目	金 額	
収入の部		
1 事業収入 調査業務受託	2,500,000	2,500,000
当期収入合計		2,500,000
収 入 合 計		2,500,000
支出の部		
1 事業費 受託調査費	2,000,000	2,000,000
2 特定非営利活動に係る事業会計への 繰り出し金	500,000	500,000
当期支出合計		2,500,000
当期収支差額		0

## 定款 新旧対照表

H16.6.23

新	旧
第3章 役員及び顧問	第3章 役員
第13条第1項 (1) 理事 3人以上15名以内	第13条第1項 (1) 理事 3人以上10名以内
第20条 この法人に、理事会の推薦により顧問をおくことができる。 2 顧問は、理事長の諮問に応じて助言をする。 3 定数は、特に定めない。	第20条 この法人の会議は、総会及び理事会の2種とする。
第21条 この法人の会議は、総会及び理事会の2種とする。	第21条 総会は、正会員をもって構成する。

以降の各条は、繰り下げとする。

平成 16 年度 役員名簿

H16.6.23

理事長	大迫 健一
副理事長	安藤 茂
理事	坂本 弘道 (新任)
理事	亀田 泰武
理事	望月 倫也
理事	松井 瑞江
理事	渡辺 和紀
理事	巽 良雄 (新任)
理事	深堀 政喜 (新任)
理事	中川 幸男
監事	奥井 英夫

平成 16 年度 顧問 候補者名簿

H16.6.23

松井 大悟 氏 (財)下水道新技術推進機構・理事長